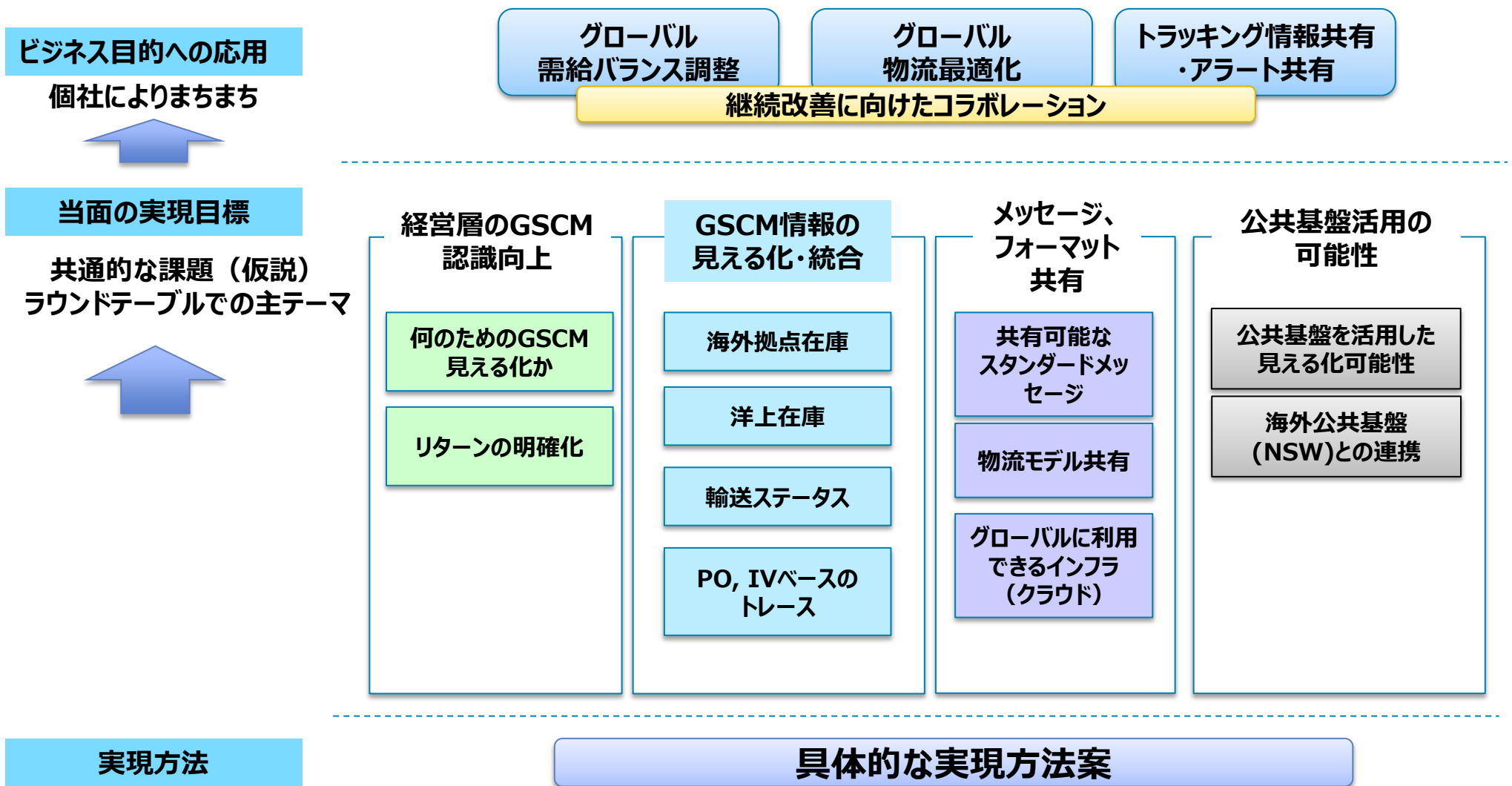


SIPS 国際連携タスクフォース 第二回

ディスカッションペーパー 国際SPを用いたSCM見える化についての実証 (Proof Of Concept)

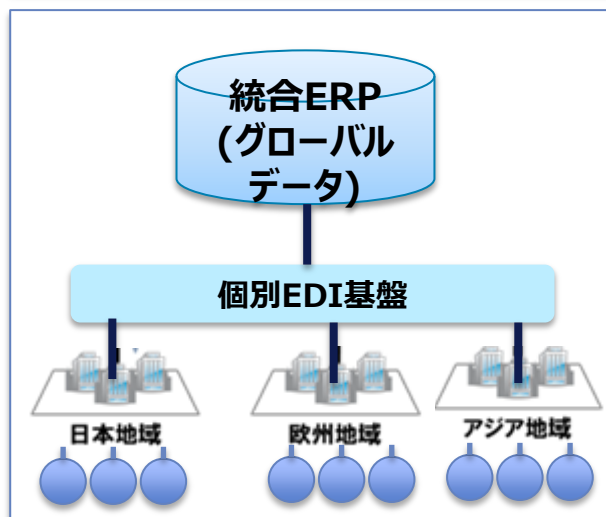
国際物流ラウンドテーブルの振り返り

国際物流ラウンドテーブル第一部「課題認識：ユーザー企業の国際物流の現状と課題」での議論から、共通的な問題意識が浮き彫りにされたと考えられます。



GSCM情報の見える化・統合に向けた3つの方向性

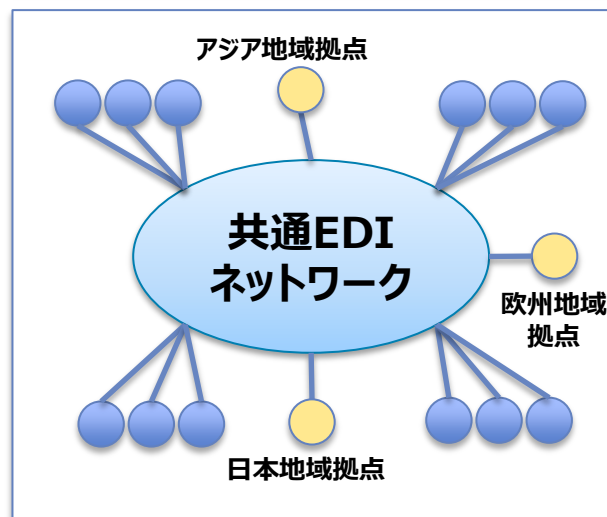
ERP統合と個別EDIによる統合



課題

- 大規模な投資が個社ごとに必要。(大企業向き)
- 拠点ごとのIT化事情を勘案した要件調整が困難。
- 物流業者との個別EDI接続が必要。

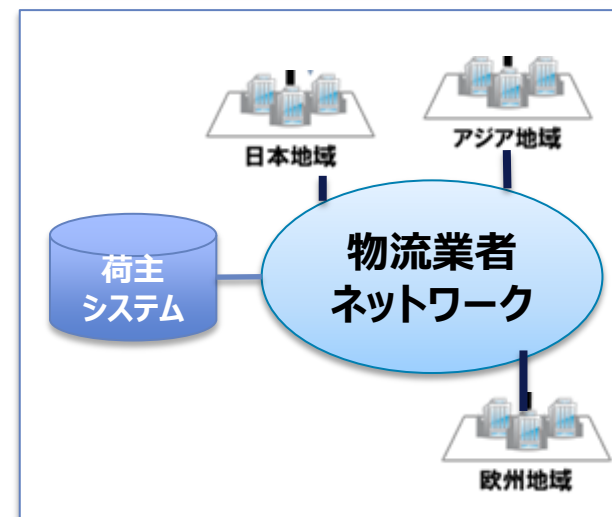
共通EDI基盤を用いた統合



課題

- 共同利用におけるN:Nの標準化について要検証。
- 日本での実装事例が少なく、どこまでの情報が見えるのか不明確。

物流業者を介した統合



課題

- 個々の物流業者IT基盤への依存度高。
- 地域、プレーヤーなどのカバレッジに不安感。

大手外資系企業では、規模の拡大に伴い外部接続を自社EDIで実施することが困難になり、国際サービスプロバイダーの活用を推進（ラウンドテーブル：河野様プレゼンテーションより）

国際SPを用いたGSCM見える化実証の検討（案）

国際SPのGSCM見える化ツールとしての有効性検証案（ディスカッション）

What	誰が見たいか。	荷主（経営層、発注元、発注先、販売部門、生産部門、物流部門、経理部門、IT部門）
	何を見たいか。	拠点在庫、移動中在庫、本船スケジュール、輸送ステータス、物流コスト（請求書ベース）
	その情報をどこから得るか。 （データソース）	荷主拠点、船社、フォワーダー、3PL、公共IT基盤、など
	その情報をどう見るか。 （中継）	国際サービスプロバイダー、公共IT基盤、など
How	国際サービスプロバイダーの機能要件	既存接続先、SCM上のカバレッジ、情報鮮度、粒度、タイミング、プロトコル、データフォーマットなど
	国際サービスプロバイダーの非機能要件	セキュリティ、性能、障害対策、可用性、価格体系
	公共IT基盤の活用可能性	公共IT基盤を日本側のハブとして活用する方法はないか。 （新しいチャレンジとして可能性を検討）
Why	取得した情報を何に使うか。	取得した情報がどのようにビジネス目的に活用できるか。

進め方イメージ

具体的なスケジュールなどについては、今後の検討とさせていただければと存じます。

